

地域支援コーディネーターだより

～地域のつながり・支え合い活動を応援します～

第1号

編集・発行 社会福祉法人 志摩市社会福祉協議会 地域支援課
TEL 0599-55-3885 FAX 0599-55-4014

志摩市社会福祉協議会では、行政が作る地域福祉推進の基本計画である「地域福祉計画」と一体的に具体的な福祉活動を計画する「地域福祉活動計画」を策定しています。

平成19年の第1次計画から始まり、現在は平成29年4月から令和4年3月までの5年を期間とする第3次計画の4年目となっています。

本計画では、旧町単位に1名ずつ地域支援コーディネーターを配置し、住民主体の地域づくりを支援しています。地域づくりに参加する人を充実させる「人づくり」と、地域づくりのための活動が作りだされる「場づくり」を進めています。

今回、「地域支援コーディネーターだより」を発行し、地域の様々な取り組みを紹介いたします。(新型コロナウイルス流行以前の写真が含まれております。ご了承ください。)

「こんなことしているよ！」

…皆さんの活動を
教えてください。

地域づくりについて
一緒に考えていきます。

つどいの場を盛り上げて
いきましょう。

「こんなことに困ってきたの」
…地域課題について共に考え
ていきましょう。



浜島地区：地域の新たな拠点づくりへの取り組みについて
紹介します。

浜島町では、今年度より地域の新たな取り組みとして、拠点づくりに取り組んできました。

拠点とは、住民の皆さまと地域支援コーディネーターが

協働で地域の“よりどころ”となるような場所を設置し、住み慣れた地域で暮らし続けるお手伝いをするものです。

今年度は主に、地域の皆さまのお話を聞くため、戸別訪問によるインタビュー調査や、地域の課題や強みについて話し合う「ふくし座談会」を実施し、地域の皆さまと一緒に、必要とされる拠点になるよう、機能を検証しました。





大王地区：市内で初めての「子ども食堂」 立ち上げについて紹介します！



大王町では、令和2年9月から子ども食堂「おひさま」が始まりました。

市内で初めての子ども食堂を始めたいとの相談を受け、「何から始めるべきか」「参加希望者がどの位いるのか」などの不安や心配がありましたが、できることから取り組んで行こうと、まず代表の方々は市外の子ども食堂に視察へ出かけました。コーディネーターは、教育委員会へ相談し、大王小学校へアンケートの依頼を進めました。



アンケートの結果は、予想以上に参加希望者が多く驚きでした。できる限り参加希望の子どもたちの思いに応えようと、月1回で計画していた回数を月4回と変更し、開催に向けての話し合いを重ねました。代表の方は準備や調整が大変だったと思いますが「地域に恩返しをしたいから、大変じゃないよ」と笑顔でお話しされたことが、心に残っています。

開催を楽しみに、毎回10名程の子ども達が参加し、手作りの料理を食べた後は、折り紙やミニ卓球などの遊びで盛り上がっています。今後も地域との繋がりを大切にし、活動を応援していきたいと思っています。



志摩地区：住民主体の拠点づくりに力を入れてきました。

志摩町内に拠点を2カ所設置しました。住民生活の活性化や地域課題の解決に向けて取り組んでおり、それぞれ特色が違います。

和具地区：地域交流拠点つばさ

(志摩町和具2240番地、☎85-6511)

社協の志摩町拠点とボランティアや民生委員の拠点として、社協とボランティア等が共に施設を運営する新しい取り組みです。打合せに施設を使ったり、ふらりと立ち寄りOKです。地域住民の交流や生きがいづくりなどの行事が行われています。

(ボランティア等が開催する行事)

- わいわいマルシェ（朝市）やフリーマーケット
- カフェつばさ（サロン）
- つばさギャラリー（写真展など）

間崎地区：生活支援拠点もやい（いきいきショップ）

(志摩町和具4496番地2、☎85-6767)

高齢化著しい間崎島において、地域の買い物課題を解決するため、住民有志とイオン阿児店が協働して買い物支援に取り組んでいます。イオン阿児店が商品を準備し、島民有志が運搬と販売をする新しい住民と企業の福祉の形です。ショップ店員として働くことや買い物へ来ることで見守り合い、生きがいづくりにもつなげます。





阿児地区：地域の集いの場（ふれあいサロン）への関りについて紹介します。



阿児町には、子育てサロンを含め15の集いの場があります。春に緊急事態宣言が発令された際は、定期的に行われていた集まりの自粛を余儀なくされ、参加者の閉じこもりや筋力低下が心配されていました。コロナ禍においても、参加者宅を訪問したり、電話で声掛けするなど、何とか参加者となつたり続け、活動を継続していたサロンもありました。

感染状況が落ち着いた頃を見計らい、再開するサロンも出てきました。

うらじろサロンでは、三密を考慮して午前と午後の部に分かれて実施することとなりました。久しぶりに会した参加者は皆笑顔で、会える喜びを実感しているようでしたが、1月の警戒宣言により再度活動が中止となっています。

このお便りが皆さまの手元に届く頃には、少しずつ活動が再開していることを期待し、今できることをボランティアの皆さまと共に考えていきたいと思います。



磯部地区：ボランティアへの関わりについてご紹介します。

ボランティア団体の様々な活動を応援・支援していきます。

● 絵手紙グループひまわり

高齢者の方へ心を込めた絵手紙をお送りしているボランティア団体です。



絵手紙を送るだけでなく、磯部郵便局の協力で、絵手紙の配達時に絵手紙を受け取る方へ声かけをしています。

これにより絵手紙活動に見守りの要素を持たせています。

コーディネーターとして、この絵手紙活動を周知し、絵手紙を希望する方を紹介するなど活動をサポートしています。

※この活動は磯部町のみとなります。絵手紙の対象者は主に80歳以上の一人暮らし、または高齢者のみの世帯です。



● なごみ会

介護をしている人、介護をしていた人が集まり、介護の勉強や介護者同士の交流会を実施している介護者の会です。



主に磯部健康福祉センターかがやきで、月に1度開催し、毎回20名ほどが参加されています。

つどい、笑いあい、介護疲れを癒す。そんな出会いが生まれる居場所となっています。



志摩市社協ボランティアセンター

ボランティアセンターとは・・・

「ボランティアしたいけど・・・どんなボランティアがあるの?」「ボランティアの手助けが欲しいのですが・・・紹介してもらえませんか?」など、ボランティアをやってみたい方とボランティアを必要としている方をつなぐ『架け橋』として、様々なサポートを行っています。

ボランティアセンターの主な活動内容

養成・研修	ボランティアの普及・啓発・育成を目的に、様々な養成研修・講座・交流会等を開催しています。
登録・紹介	社協ボランティアセンターに登録していただいた方（個人・団体）へボランティアを必要としている方や施設の紹介などを行います。
活動の支援	様々な相談や援助、ボランティア活動保険の加入受付など活動に必要な支援を行います。
助成金の交付	ボランティア活動に必要な経費に対して助成金を交付します。 ※ 交付には条件等があります。

ボランティアセンター貸し出し物品のご紹介

ボランティアセンターでは活動に必要な物品の貸し出し支援を行っています。(料金無料)

レクリエーションに活用できる輪投げやビンゴゲーム、上映会や発表に活用できるプロジェクターやマイクなど多くの物品を揃えています。また、今年度からiPadも新しく仲間入りしました。



iPad (Wi-Fiモデル)



ストラックアウト

講座や研修会の開催

ボランティアに関する講座や研修会を実施しています。



R1・2年度 災害ボランティアコーディネーター養成講座



R1年度 傾聴ボランティア養成講座

問い合わせ先

志摩市社協ボランティアセンター

電話：0599-55-3885 / FAX：0599-55-4014

ホームページ：<https://shima-fukushikyo.or.jp/CCP027.html>